

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに適切に表現しようとする態度を育てる。 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。 	
	学期	学習内容・到達目標
前 期	1 物語をくふうして音読しよう／こわれた千の楽器 ・場面の様子や人物の気持ちが伝わるように、工夫して音読する。	文末の言い方に目を向けよう／漢字の練習 ・文末表現には、話し手や書き手の判断や物事のとりえ方が表れていることを理解する。
	図書館へ行こう ・本の分類と図書館の配架を知り、本の探し方を確かめる。 心の動きを文章に書こう ・そのときの気持ちが伝わるように工夫して文章を書く。 漢字の読み方に気をつけよう／漢字の練習 ・漢字の音訓や送り仮名について理解する。 2 だん落のつながりをとらえながら読もう／ヤドカリとイソギンチャク ・段落と段落の結び付きをとらえ、文章のまとまりを考えながら読む。 案内係になろう ・相手が知りたいことを考え、必要なことを選んで話す。 わたしが選んだ今月のニュース ・出来事を分かりやすく報告する文章を書く。 漢字辞典の使い方を知ろう ・漢字辞典の仕組みと三種類の索引の使い方を知り、漢字の学習に活用する。 3 人物の様子や気持ちを考えながら読もう／走れ ・中心となる人物に気を付けて、様子や気持ちを考えながら読む。 メモの取り方をくふうして聞こう ・事柄と事柄の関連に気を付けて話を聞き、工夫してメモを取る。 4 目的による表し方のちがいを考えよう／広告と説明書を読みくらべよう ・目的による表し方の違いや述べ方の工夫を読み取る。 わたしの考えたこと ・伝えたいことの中心を明確にし、文章の組み立てを考えて書く。 「ことわざブック」を作ろう ・ことわざや故事成語について知り、ことわざの意味を理解して使う。 本は友達 ・読書への関心を高め、多様な本を読む。 詩を読もう／ふしぎ／よかったなあ ・場面の様子を思い浮かべながら、詩を声に出して読む。 「今の自分」を話します ・伝えたいことをはっきりさせ、材料を選んで話す。 ・自分の体験と結び付けたり、自分の考えと比べたりしながら聞く。 お願いやお礼の手紙を書こう ・目的に合わせて書くことを選び、依頼状や礼状などの手紙を書く。	1 人物の気持ちの変化を考えて読もう／ごんぎつね ・場面の移り変わりに気を付けて、人物の気持ちの変化をとらえる。 連詩にちよせんしよう ・言葉から想像を広げ、友達と協同して詩を作る。 文の組み立てを考えよう／漢字の練習 ・主語・述語・修飾語それぞれの働きを理解し、文の構成をとらえる。 2 くらしの中の世界について調べよう／くらしの中の和と洋 ・まとまりごとの内容を考えながら読み取る。 ・何をどのように比べているかを考えながら読み取る。 みんなで話し合っ／漢字の練習 ・話し合いの基本的な進め方を知る。 ・司会を中心にそれぞれの役割を果たしながら話し合う。 3 取材したことをもとに学級新聞を作ろう／みんなで新聞を作ろう ・取材したことを整理して、分かりやすい記事を書く。 ・読み手の興味をひく書き方を工夫する。 文と文をつなぐ言葉の働きを考えよう／漢字の練習 ・文と文を接続する言葉の働きを理解する。 4 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう／世界一美しいぼくの村 ・家族やふるさとを思う心を描いた、いろいろな本を読む。 「百人一首」を声に出して読んでみよう ・短歌を声に出して読んで、言葉の響きやリズムを感じ取るとともに、情景を思い浮かべる。 目的に合わせて書こう ・伝える内容や形式を考えて文章を書く。 ・伝えたいことに合わせて必要な資料を選んで文章を書く。 5 調べたことをポスター発表で報告しよう／報告します、みんなの生活 ・調べたことを整理して、ポスターを使いながら順序よく報告する。 同じ読み方の漢字に気をつけよう／漢字の練習 ・それぞれの漢字には意味があることを理解し、同音・同訓の漢字を正しく使い分ける。 6 わたしたちの生活とロボットについて考えよう／「ゆめのロボット」を作る ・筆者の考えがどんな言葉で表されているかに注意して読む。 ・文章を読んで考えたことを理由や例を挙げて書く。 「十さいのわたし」文集を作ろう ・一年間の思い出の文章や未来の自分への手紙を書き、文集にまとめる。 漢字を使って読みやすい文を書こう／漢字の練習 ・漢字の良さを知り、漢字と仮名を用いた表記に関心を持つ。 7 様子が分かるように音読げきをしよう／木竜うろし(人形げき) ・場面の様子や人物の気持ちが伝わるように、工夫して音読劇をする。

国語科の評価

・国語科では五つの観点で評価します。

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
国語に対する関心を持ち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとする。	相手や目的に応じ調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする。	相手や目的に応じ調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書く。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。	音声、文字、語句、文や文章、言葉の違いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。書写では文字の大きさ、配列、毛筆では、点画の接し方、交わり方、方向、文字の組み立て方などを理解して文字を正しく書く。

・次のような方法で見えていきます。

発表内容 ノート 音読 テスト 発表会 作文 感想文 音読の観察 クイズ 読書カード

おうちの方へ

音読は、学習の基本であり、より多くの人からの肯定的評価が意欲の継続につながります。家庭のご協力をお願いします。学習内容の定着を図るため、漢字ドリルや学習プリントなどを活用します。家庭学習にも取り入れます。読書は、国語の基礎的な事項の定着、情緒的な面の育成、情報収集のための活用等からも重要であり習慣化することが大切です。